

SHOW-HEYシネマルーム

★★★★

トゥームレイダー2

配給/東宝東和

2003 (平成15) 年8月8日鑑賞

<試写会>

Data

監督: ヤン・デ・ボン

出演: アンジェリーナ・ジョリー/

ジェラルド・バトラー/シア

ラン・ハインズ

👁️👁️ みどころ

今ハリウッド映画では『チャーリーズ・エンジェル』をはじめ、アクション・ヒロイン映画が花盛りだ。『トゥームレイダー』のヒロインであるララ・クロフトは考古学者で英国の貴族の娘。このキャラにはまり込み、美貌のみならず、強靱な「マッスル・レディー」を誇るのは、アンジェリーナ・ジョリー。「パンドラの箱」をめぐるストーリーはどうでもいい・・・?ただアンジェリーナ・ジョリーの活躍を楽しもう。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<次々と続くアクション・ヒロイン映画>

2003年夏に大ヒットした『チャーリーズ・エンジェル フルスロットル』はアクション・ヒロインが主人公。また『007/ダイ・アナザー・デイ』のハル・ベリーや『マトリックス リローデッド』のキャリー・アン・モスも、男性主人公の向こうを張って、その圧倒的な「強さ」を披露する。

ちなみに、2003年8月5日付産経新聞夕刊は、今や「トレンドな女優はアクション・ヒーロー」だと述べ、「マッスル・レディー」として、①ハル・ベリー、②キャリー・アン・モス、③キャメロン・ディアス、④アンジェリーナ・ジョリーの4人の女優を紹介している。またこの他にもデミ・ムーアなども文中には登場だ。

また、私が『社会派熱血弁護士 映画を語る SHOW-HEYシネマルームII』のショートコメントで取り上げた『バイオハザード』(02年)でヒロインを演じた美人女優ミラ・ジョヴェヴィッチのアクションもすごかったし、最近では『パルスティック』のルーシ・リュウも圧巻だった。

＜『トゥームレイダー』のヒロインにララ・クロフト＞

ゲームのヒロインとして誕生し、ポップ・カルチャーのアイコンとなり、2001年の映画化によって世界的な人気を獲得したのがララ・クロフト。この役（キャラクター）を演ずるのは、『ダブル・ジョパディー』（99年）の主演女優アシュレイ・ジャッドによく似た美人女優のアンジェリーナ・ジョリー。

ララは、高名な考古学者ヘンシングリー・クロフト卿の娘で、英国貴族の一員。遠征中に謎の失踪を遂げた父の仕事に興味を抱き、考古学に熱中。飛行機事故を奇跡的に生き延びたことがきっかけで、死と背中合わせの危険と遭遇したとき、自分が最も生を実感できることに気づく。このときから世界を股に掛けるトゥームレイダーの冒険を開始した、という設定だ。

従って、ララは貴族の娘として大邸宅に住みながらも、武術と肉体の鍛練を怠らない毎日を過ごしている

今回（本作）は、女王陛下の命令で「パンドラの箱」を見つけて、これを封印する「お仕事」だ。

＜冒頭は美しい海底都市＞

冒頭はギリシャのサントリーニ島。石造りの建物が並ぶ島内では、結婚式のパーティーだ。しかし、そこに突如大地震が発生した。建物は崩壊し、岩石は次々と海底に・・・。

ここで考古学者のララを登場させるのにふさわしい物語が用意されている。それは紀元前330年の火山噴火によって海に飲み込まれてしまったアレクサンダー大王の神殿が、2300年ぶりに海底に姿を現わし、これが発見されたというストーリーだ。そしてこの神殿の中には、何と「パンドラの箱」にまつわる「黄金の珠」があったのだ。

「パンドラの箱」とは、ご存知の通り、あらゆる災いを封じ込めた箱。万能の神ゼウスがこれをパンドラ（女性）に持たせて人間の世界に持ち込んだ箱だ。そして、これを開いたために人間界に不幸が飛び出したが、急いで蓋をしたため希望だけが残ったと言われるものだ。

そして、アレクサンダー大王はこの「パンドラの箱」を人類起源地である「生命のゆりかご」に隠したが、「パンドラの箱」の所在を記した「黄金の珠」がこの神殿にあったのだ。

『悪役』は、ノーベル賞を授賞したこともあるという一流の科学者ジョナサン・ライス（シアラン・ハインズ）。ジョナサンはその才能を悪用して、生物科学兵器を設計して世界中のテロリストに売りさばっていた。ララの任務は、ジョナサンが「パンドラの箱」にたどり着き、これを開くのを阻止することだ。

もっともこの映画を楽しむのにこんなストーリーはどうでもいい（?）。まずは、美しい海底都市に至るまでのジェット・スキーや水中バイクを駆使したララのアクション、そし

てアンジェリーナ・ジョリーの美しい水着姿(?)を楽しめばいい。

<活躍の場はカザフスタンと中国の奥地、そして上海、香港>

ララが与えられた任務を果たすために選んだ相棒は、かつての恋人のテリー・シェリダン(ジェラルド・バトラー)。イギリス海兵隊の将校から裏社会の傭兵となったテリーは、クセは強いものの能力は抜群。ララの「元カレ」として、今でもララを気に入っている様子だが、果たして、ララは・・・?

この2人の心理戦もこのパートIIではお楽しみの1つ……。しかし、主人公はあくまでララ。テリーはしよせん刺身のツマか……?

今は捕虜となっているこのテリーをカザフスタンの刑務所から救い出したララが向かったのは中国の奥地。ここに悪党のアジトがあるからだ。このアジトで、ララとテリーの2人は息のあったアクションを展開。ララの棒術は見事のひと言。続いて、「黄金の珠」を追って、ララのアクションが展開される舞台は、中国の摩天楼、上海、そして香港だ。

超高層ビルが立ち並ぶ美しい町の中で、派手なアクションが次々と。場面の展開もスピーディ、アクションもそれぞれ工夫があり面白いので、全く飽きることがない。デジカメ、パソコンなどの近代機器も存分に活用しながら、ララは次第に「パンドラの箱」に近づいていった。

<最後の舞台はアフリカのキリマンジャロ>

「パンドラの箱」が眠っているのはアフリカのキリマンジャロ。この「神の山々」と呼ばれる、決して人間が入ってはならないところに、「パンドラの箱」が眠っているのだ。現地の部族の許可を得て、「パンドラの箱」に迫るララ。しかし、悪役のジョナサンもヘリに乗り、多くの武装した部下と共に、「神の山々」に向かっていた。

未知の世界を通り、「パンドラの箱」に至るまでストーリーは、「奇妙な怪物」が出てきたりしてちょっとマンガ的だが、これもご愛敬か……?

<アンジェリーナ・ジョリーの肉体能力は絶品>

アンジェリーナ・ジョリーという美人女優は、『ボーン・コレクター』(99年)や『60セカンズ』(00年)等数多くの作品に出演しているが、前作の『トゥームレイダー』(01年)以降、ララ・クロフトというキャラクターの魅力に取りつかれ、一層のパワーアップに生き甲斐を感じているらしい。このララの役を完璧に演ずるためには、アンジェリーナ・ジョリーの肉体能力(マッスル能力)のアップは不可欠。そのために、彼女が取り組んだトレーニングも多種多様だ。

この映画で見せるアンジェリーナ・ジョリーのアクションは、①ジェット・スキー、②水中バイク、③棒術、④乗馬、⑤スピニング・ライフル、⑥バンジー・ジャンプなど。ど

れを観てもすごい！と思わされるが、中でも棒術は特筆もの。そのシーンは時間的に短い
ため、あの『たそがれ清兵衛』（02年）で真田広之が見せた素晴らしい決闘シーンには及
ばないものの、2つの場面で見せるその棒術の見事さは、まじめなトレーニングぶりを如
実に物語っている。

その他、舞台と場所を変えて、次から次へと展開される美人女優アンジェリーナ・ジョ
リーのカッコいいアクションを観るだけで、もう十分満足。その他の役者やストーリーは
全部忘れてしまってもいいのでは・・・？と思うほど。

<パートⅢへの予感>

パンフレットによると、早くもパートⅢが構想の段階に入ったとのこと。アンジェリー
ナ・ジョリーが演ずるララ・クロフトは、パートⅢでも「手を変え、品を変え」（舞台を変
え、男を変え？）進化していけよう。大いに楽しみだ。

2003（平成15）年8月9日記